

2. 1 7 (6) 据付準備及び基礎

§1 現場実測の要領

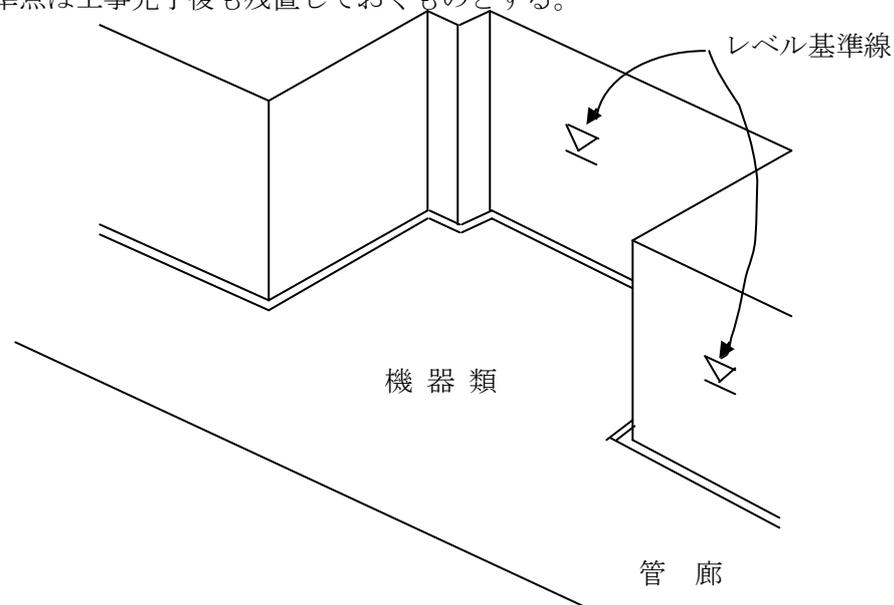
(ア) 基準線の設定

配管対象室・管廊に最低一カ所基準線を設ける。基準線は基準点(ベンチマーク)より誘導し、作業に便利な位置に設ける。また、図面寸法及び現地状況、機器の配置より配管の中心線を決め、基準面に墨出しする。

(イ) 副基準点の設定

高さ及び平面の基準は、監督員より指示された基準点より誘導し、スラブ面、柱又は壁等に副基準点又は副基準線を設定する。

まお、副基準点は工事完了後も残置しておくものとする。



(ウ) 平面の墨出し

基準点をもとにして、機器の中心線を設定する。この場合建屋の柱及び壁など建屋内の配置をチェックし、また機器が複数台ある場合は、その相互の関連を十分に考慮するものとする。

(エ) 高さの墨出し

基準点の標高から各機器の据付高さを設定するものとする。

(オ) 既設物、機器のレベル芯確認

機器の配管接続口、開口、取合管等既設物又は設置完了しているもののレベル芯に測定し、図面寸法との誤差を確認し、現実にあったレベル芯に修正する。また経路に障害物の有無をチェックする。

図面寸法の誤差の修正、障害物の撤去、配管の迂回修正を行う場合は、監督職員の指示に従って施工する。

(カ) 据付基礎点検

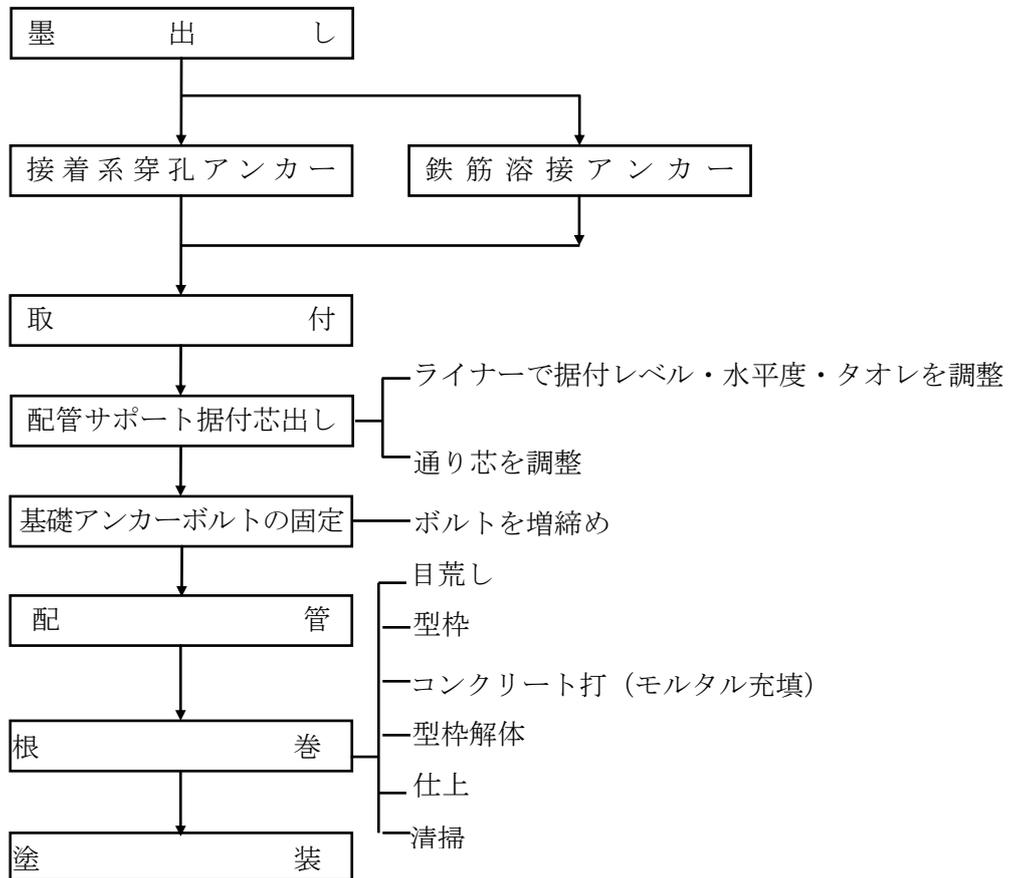
配管、弁類等、土建工事施工の基礎台がある場合は、基礎ボルトの箱抜穴が深さ充分であるか、途中の倒れがないか確認する。コンクリート架台が施工されていて基礎ボルトの箱抜穴が施工されていない場合、あっても適当でないものがある場合は監督員と協議の上、これを設けるものとする。

(キ) スラブ積載荷重の確認

据付にあたっては、事前に配管の静・動荷重等と床の積載荷重のチェックをする。

§2 基礎サポート施工要領

(ア) 屋内鋼製サポート



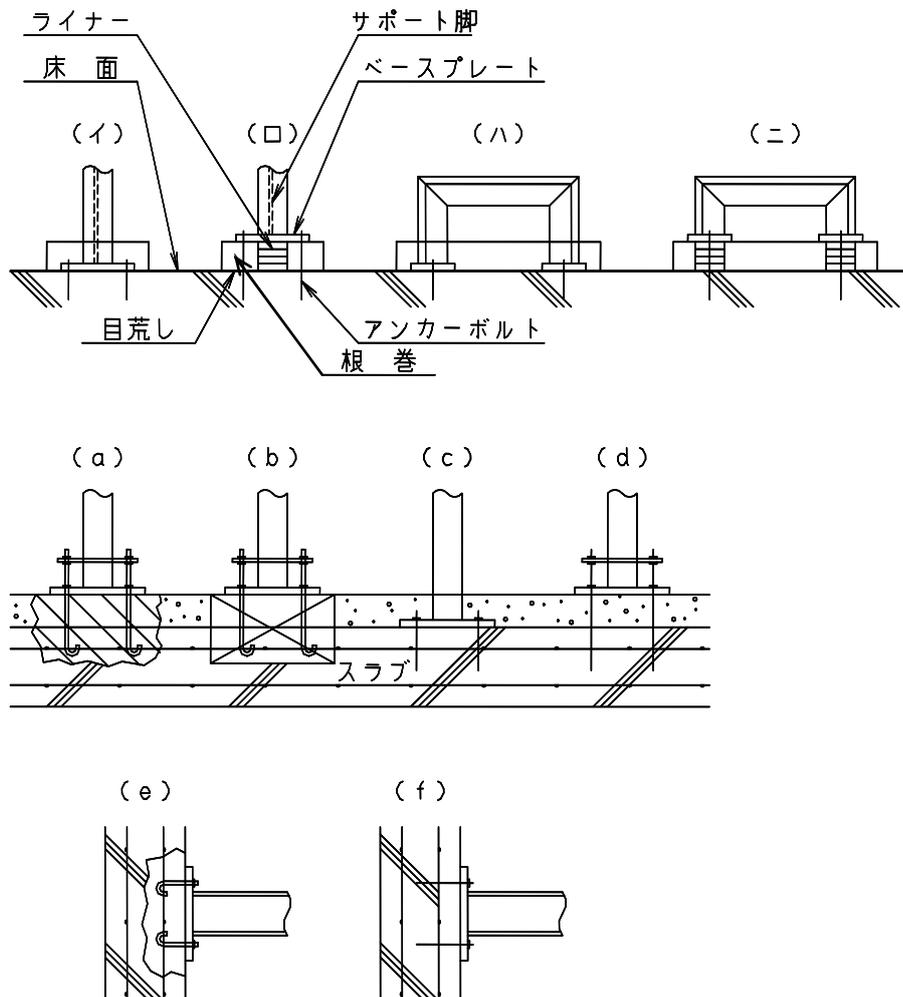
A 鋼製サポートの基礎

(A) 配管の作用する力（圧縮力、せん断力、不均等力等）により、アンカー部の施工要領を考慮する。

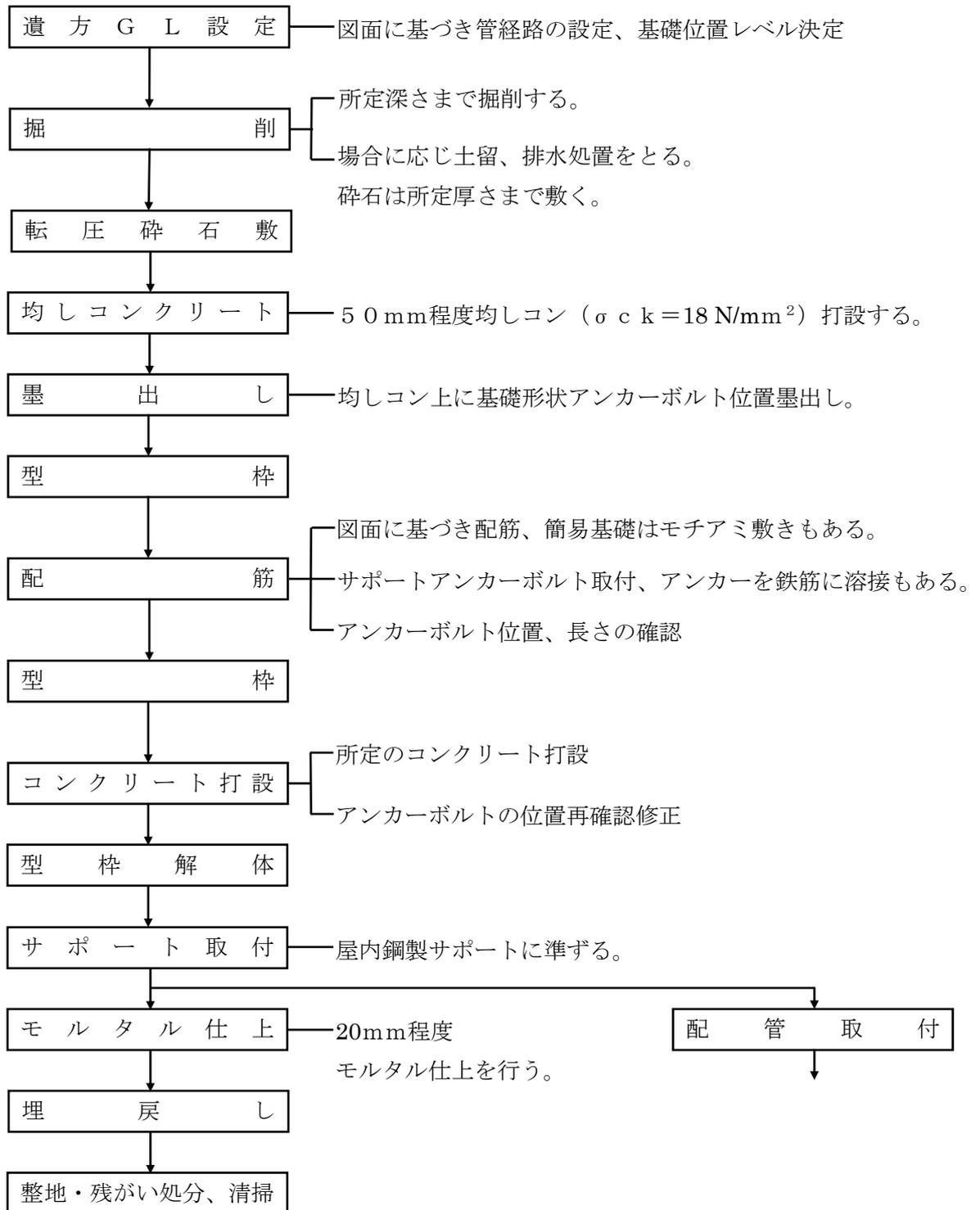
(B) アンカーの施工を下図に示す。（参考）

- a スラブ鉄筋をつり出しアンカー溶接した例（耐振・重荷サポート等）
- b あらかじめ箱孔があけてあり、鉄筋にアンカーを溶接した例（耐振・重荷サポート等）
- c シンダーコンクリートをはつり接着系穿孔アンカーを使用した例（一般サポート）
- d シンダーコンクリートを貫通しスラブコンクリート穿孔アンカーを打込んだ例（一般サポート）
- e 壁をはつり出し鉄筋にアンカーを溶接した例（耐振・重荷サポート等）
- f 壁に接着系穿孔アンカーを使用した例（一般サポート）

鋼製サポートの根巻例（参考）



(イ) 屋外鋼製サポート

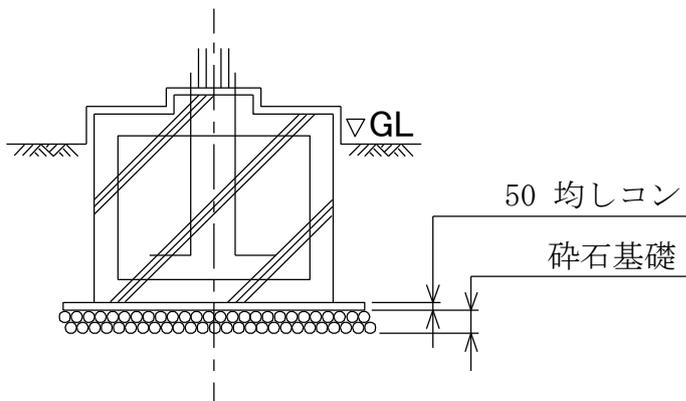


(特記事項)

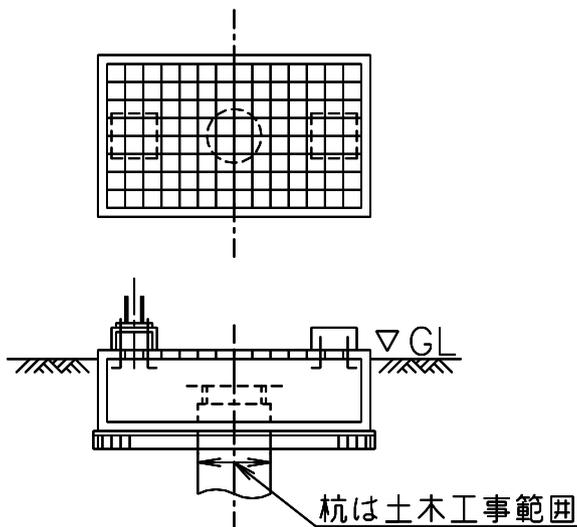
- (1) 地盤の状況に応じ杭等考慮する。(土木工事範囲)

(2) 荷重、設計条件に応じ基礎寸法、配管仕様を決定する。

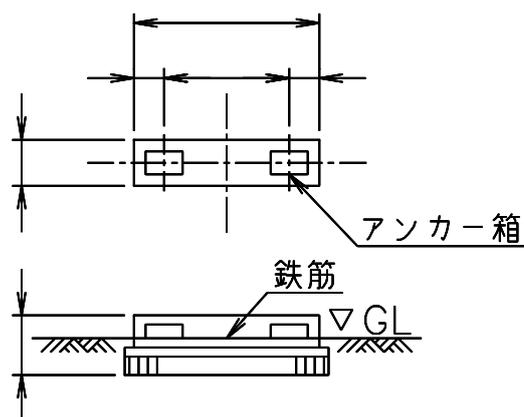
a. 標準取付例



b. 杭がある場合の例



c. 簡易基礎の例



コンクリート、モルタル仕様

項目	仕様			
基礎コンクリート	設計標準強度 $\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$ 以上			
仕上げモルタル		配合比	配合 (1 m ³ 当り)	
			高炉セメントB種 (kg)	洗砂
	基礎仕上用	1 : 3	532 kg	1.05 m ³
	箱孔充填用	1 : 2	720 kg	0.95 m ³